

---

# 狼と凡人君

赤夜叉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狼と凡人君

### 【コード】

N9685U

### 【作者名】

赤夜叉

### 【あらすじ】

現代版『狼と香辛料』です。ただし、ロレンスは出ません。

(前書き)

ホ口大好きです。

『事実は小説より奇なり』。

誰の言葉か知らないが、そんな事は絶対に無いね。少なくとも、俺の人生は物凄くつまらないモノだ。フィクションのような不思議な展開は、絶対に起こらない。

平凡な日常だ。平和なのは良いが、平凡なのはよろしくない。何故なら現実リアルな世界ほど、つまらないモノは無いからだ。バトル漫画のような手に汗握る興奮も無ければ、恋愛漫画のような甘い展開もありやしない。まったく、現実ほどくだらないモノはないよ。

しかし、そう思っていた俺に、『事実は小説より奇なり』な出来事が起きた。

「わっちの名は、ホロ。賢狼・ホロじゃ」

俺の前に、『狼と香辛料』の『ホロ』が現れた。

『狼と香辛料』ボクとホロの一年』をやっとクリアして、エンディングを見終わった時だった。ゲーム機の画面が急に強い光りを放ち、たまらず目を閉じた。

そして、光りが収まって目を開いたら、目の前に一人の少女が居た。狼の耳と尻尾があり、紅い瞳の少女は紛れもなくホロだった。

「ヤベーな。現実逃避し過ぎて、幻覚が見える」

「こりゃ、ぬしょ。わっちは、幻覚なんかじゃありません」

「そうか、夢なんだ！ ホントに、しょうがない俺は……。夢の中だけでも幸せになりたいなんて、甘えんだよ！」

「わっちの話を聞かぬか！」  
「痛っ！」

ホロに頭を叩かれた。

叩かれた瞬間、確かに痛みと衝撃を感じた。  
ホロは、現実に俺の目の前に存在していた。

「わっちは、ぬしと世界を生きたい。ダメかや？」  
「…………マジ？」

現実の世界で、ホロと俺の物語が始まる。

(後書き)

こんなんですが、よろしければ感想をどうぞ。  
今は無理ですが、いつか連載で書きたいと思ってるので、何かご意見をいただけたら嬉しいです。  
では。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9685u/>

---

狼と凡人君

2011年10月5日20時26分発行